



長寿社会文化協会

昆布山 良則さん

ているが、正確な数字は不明と言う。ボランティア的なものからレス

今年4月から始まった新しい介護予防・日常生活支援総合事業。要支援の通所・訪問サービスを自治体の事業に移管し、多様化を図るのがねらいだ。住民主体の多様なサービスづくりが目指されており、コミュニティカフェもメニューの1つにあげられた。しかし、どこから手を付けてよいか分からないという声もよく聞く。

コミュニティカフェ

「続けること」が重要

大事なのは、継続。継続できこそ、長く住民を支援していくことができる。高齢者だけに利用者を絞らず、障害者や子育て世帯も含め誰でも住民が参加できる場として人を集めるのが理想です」

1人1回300円程度の参加費を集めるだけで運営していくのは難しく、閉鎖した例もある。12年から、

「カフェをやりたいと思っっている人は地域の中に必ずいます。悩んでいる自治体に協力していきたい」

助成が有効」

長寿社会文化協会(WAC)事務局の昆布山良則さんは話す。WACは、高齢者の健康や生きがいづくり

上げ支援事業も行っている。「最初の費用負担が重く、運営費より、開設時の助成が有効」昆布山さんによると、コミュニティカフェは全国に3万カ所以上あると推定している。

25〜30時間の「コミュニティカフェ開設講座」を始めた。開設に向けた事業計画を発表し、運営の1日体験などを行っている。3年間で200人以上が参加している。